

早稲田大学 まちづくりシンポジウム 1997

講演資料集



平成9年7月5日（土）・6日（日）

早稲田大学国際会議場

主催

早稲田大学まちづくりシンポジウム実行委員会

共催

早稲田大学理工学総合研究センター 早稲田都市計画フォーラム

後援

早稲田大学・早稲田大学専門学校

稲門市長会 稲門町村長会 (社) 日本都市計画学会

早稲田大学理工学総合研究センター参加のまちづくり研究会

7月5日(土) 10:00~17:35 at 早稲田大学国際会議場

早稲田都市計画フォーラム 第5回公開シンポジウム

10:00~10:20 開会あいさつ

戸沼幸市(早稲田大学)

10:20~12:05 Symposium1 「都市づくりにおける市場性と計画性」

バブル期の土地利用の混乱に対して、各界から様々な原因が指摘され、原因除去のための解決策が提案された。代表例の一つは経済サイドによるもので、「市場の論理」を妨げる種々の規制や不徹底な税制が原因であるとして、規制緩和と税制活用策等を提案している。他の代表例は都市計画サイドによるもので、市場メカニズムの活用という視点から実施された各種規制の緩和にその原因があるとして、「生活の論理」に基づく都市計画制度の厳格化を提案している。これら二つの代表的な解決策は、まさに正反対の主張である。

シンポジウム1では、都心部・農村部における土地利用の混乱について具体的事例もとに検証し、経済サイドと都市計画サイドの認識のギャップについて議論する。

●浅見 泰司(東京大学) ●生田 征夫(新宿区) ●岩田規久男(上智大学) ●平林伊三郎(穂高町)
▲内田 勝一(早稲田大学) ▲外尾 一則(明海大学) ■山崎 一真(野村総合研究所)

13:00~13:40 基調講演 「明日の都市づくりと基盤整備」

浅野光行(早稲田大学)

我が国が成熟社会へと向かうにあたり、明日の豊かで活力ある都市地域を形成するために、都市整備はいかなる役割を果たし、今から何を準備すべきであろうか。

13:50~15:35 Symposium2 「都市空間のユニバーサルデザイン」

21世紀には、我が国はかつて経験したことのない高齢化社会を迎える。高齢者や障害を持つ人のためのバリアフリーが唱えられて久しいが、すべての人にとって使いやすいデザインすなわちユニバーサルデザインにより同じ空間を共有することで、さらに質の高い都市空間を形成することが期待できる。

誰もが安心して安全に暮らせる都市空間とは何か、多様なニーズにもとでその実現は可能か。道路等の公共施設から住宅にいたる様々な空間を対象に、プランナーやユーザーの立場から、都市空間のユニバーサルデザインを考える。

●秋山 哲男(東京都立大学) ●石東 直子(石東環境研究室) ●川内 美彦(アクセスコンサルタント)
▲苦瀬 博仁(東京商船大学) ▲小澤 紀美子(東京学芸大学) ■卯月 盛夫(早稲田大学専門学校)

15:50~17:35 Symposium3 「情報ネットワーク時代の都市づくり」

インターネットや電子メールに代表される情報ネットワークは終身雇用や年功序列と言った旧来のシステムを崩壊させ、それによって成果に基づいた年俸制等が新たに導入されるようになった。それはフレックスタイムや在宅勤務等を可能にし、テレワークやモバイル・コンピューティング、SOHO(Small Office Home Office)といった就業形態を生み出した。さらに、仕事の間はいわゆるオフィスという物理的空間からネットワーク上に移り、ネットワークの中で仕事をするようになってきた。こうした変化は都市構造を変えつつあり、また通勤の構造を変え、オフィス立地にも影響を与えている。それは仕事場と寝る場という2元論で捉えていた都市構造論の見直しを迫っている。

シンポジウム3ではテレワーク・モバイルコンピューティング・SOHO化等が今後の地域構造に与える影響について議論する。

●石田 正(横浜市) ●加藤 洋(日本IBM) ●川上 桂(松下電気産業) ●田口 俊夫(清水建設)
▲土方 正夫(早稲田大学) ▲森田 喬(法政大学) ■松村 茂(東北芸術工科大学)

★資料 5,000円(2日間共通)、学生無料

注) 出演者は都合上、入れ替わることもありますのでどうぞご了承下さい。

参加申込先・問合せ先(参加ご希望の方は、ハガキ又はFAXにてお申し込みください)

早稲田大学理工学部土木工学科中川研究室(担当: 赤松宏和)

〒169 東京都新宿区大久保3-4-1 電話: 03-5286-3398 FAX: 03-5272-9975

早稲田都市計画フォーラム 第3回メイヤーズ会議

10:00~10:15

あいさつ

10:15~12:15 分科会1 「地方分権時代の都市づくり」

「地方の時代」が唱えられて久しいが、国土の均衡ある発展を図り、地方分権による個性豊かで、活力に満ちた地域社会の実現に向けたシステムづくりに国民の強い期待が寄せられている。平成7年には地方分権推進法が制定され、これを受けて地方公共団体はこれまでも増して自主性、自立性が求められている。真の分権化の過程には、自治体間競争が激化し、リストラ、合併吸収、広域化の促進が余儀なくされる。

我が国の経済社会は低成長期からゼロ成長時代に向かい、国、地方問わず、財政的に逼迫状況にあり、一方では、少子化、高齢化社会が本格的に到来し、自治体運営も厳しい状況におかれ、根本的に変革する必要に迫られている。

この分科会では、こうした状況下にあつて、地方分権化を進展させていく上で基礎自治体である市町村が分権の受け皿として具備すべき条件や対応策、課題などを明らかにしていくとともに、とりわけ、都市経営、都市づくりの観点から課題や将来展望を議論する。

●竹内 謙(鎌倉市) ●田中 雅夫(あきる野市) ●藤生 通陽(秋穂町) ●増田 昌三(高松市)
▲川上 洋司(福井大学) ▲田中 栄治(地域交流センター) ■寄本 勝美(早稲田大学)

13:15~15:00 討論会 「東京を考える」

一極集中を背景とした東京論は一段落したかに見えるが、東京の果たす役割は依然大きい。そして今日、首都機能移転が議論されているが、それは東京のあり方自体を問うものである。また、東京の問題は全国の都市問題の縮図である。東京は魅力あふれる都市である反面、課題は多い。この東京が今後どうあるかは、東京と地方、日本の社会システム、世界との係わりなどに無縁ではない。

そこで、豊かな生活を実現する魅力ある都市のあり方、そのための都市づくりに求められるもの、社会システムのあり方などについて考える。

★土屋 正忠(武蔵野市) ★室橋昭(江東区) ★名倉 隆雄(東京都) ★奥島 孝康(早稲田大学総長)
▲鈴木 信太郎(早稲田大学理工学総合研究所客員研究員) ■中川 義英(早稲田大学)

15:15~17:00 分科会2 「環境・自然共生時代の都市づくり」

昨今、地球的規模での環境・自然共生意識が高まっており、今年12月には京都会議(地球温暖化防止条約の締結国会議)が開催される予定などグローバルなレベルでの取り組みが活発に行われている。一方、地域においては「地球にやさしい」、「環境にやさしい」をテーマとする省資源型のリサイクル都市づくりなどが進められるとともに、今までどちらかと言えば置き忘れられてきた地域の歴史・風土、資源等を大切にしたい環境共生型まちづくりが各所で展開されるようになってきている。さらに、近年においては、市民レベルの意識の高まりから市民の積極的な参画を得て、行政と一体となった環境共生型まちづくりが実践されているところもある。

分科会2においては、このようなまちづくりの具体例を紹介し、そのまちづくりの背景、効果、課題などを整理しながら、「環境共生」、「自然共生」の視点から、これからのまちづくりについて展望する。

●島村 慎一郎(越谷市) ●丸岡 一直(二ツ井町) ●吉尾 勝征(調布市)
▲井手 久登(早稲田大学) ▲竹田 純一(日本リサイクル運動市民の会) ■後藤 春彦(早稲田大学)

17:05~17:20

閉会あいさつ

★資料 5,000円(2日間共通)、学生無料

注) 出演者は都合上入れ替わることもありますのでどうぞご了承下さい。また「*」印は予定です。

参加申込先・問合せ先(参加ご希望の方は、ハガキ又はFAXにてお申し込みください)

早稲田大学理工学部土木工学科中川研究室(担当: 赤松宏和)

〒169 東京都新宿区大久保3-4-1 電話: 03-5286-3398 FAX: 03-5272-9975